

在宅医療と介護 切れ目のない提供をめざす

〈さくら編集室〉 昨年、山形市医師会に開設された在宅医療・介護連携室「ポピー」について、室長補佐の徳田喜恵子さんにお聞きしました。

**医療や介護が必要でも
住み慣れた地域で
安心して暮らせるように**

「ポピー」では、どのような業務を行っているのですか。

徳田 医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を整えるための業務です。一つは、地域の医療資源を把握して

情報化することで、この2月に当会のホームページから「在宅医療サビース情報」の検索システムが利用できるようになりました。各医院の療養支援状況が一覧になっています。

情報が一目でわかり便利ですね。
徳田 在宅医療や介護の仕事に携わる方、住民の方からの相談も受けていますし、医療・介護関係者の研修も行っていきます。平成27年4月から開催した研修やミニ講座、出張講座な



山形市医師会 在宅医療・介護連携室「ポピー」
室長補佐 徳田喜恵子さん(看護師・介護支援専門員)

どに、述べ1000人以上が参加されました。

住民の皆さんへホームページで情報発信したり、地域連絡会などへも参加しているんですよ。

**地域の多職種が
お互いに理解し助け合い
迅速・スムーズに連携**

住民の方からは、これまでどんな相談がありましたか。

徳田 「ガン末期の母を家で看取りたい。どうしたらいいか」という息子さんからの相談がありました。

このときは訪問診療が可能な医師、ケアマネジャー、訪問看護師をコーデ

イネットしました。各職種の方が迅速に対応してくれて、お母様は自宅で9日間過ごされ、家族に見守られてやすらかに旅立たれました。

医療と介護がうまく連携するためには、何が必要でしょうか。

徳田 医療も介護も最終的な目標は同じで、地域の住民が最期まで安心して暮らせるよう支援することです。その目標を共有して、連携できる仕組みをつくることだと思います。

「ポピー」の役割が大きいですね。

徳田 在宅医療に関わってもらえる医師が増えること、また医療・介護に関わる多くの職種が医師の24時間体制の負担を補えるよう連携していくことも必要です。そのためには地域の多職種がお互いを理解し、助け合えるよう、「ポピー」の活動を充実していきたいと考えています。



医療・介護関係者研修で講演する徳田さん



親身になって利用者のお話を聞く手塚さん

介護は生活とともに 人生支えるライフサポート

〈さくら編集室〉 山形県済生会の高齢者福祉施設の一つ、特別養護老人ホームながまち荘・生活相談員の手塚敬一郎さんを訪ねました。

目標は「ゼロゼロセン」

**科学的介護を行い
自立支援と尊厳を保持**

「ながまち荘」独自の取り組みについてご紹介ください。

手塚 当荘では、高齢者がいつまで

も人間らしく生活できるように「自立支援介護・尊厳の保持」をめざして、「ゼロゼロセン」という目標を掲げています。これは、オムツ・胃瘻・骨折・褥瘡・拘束・下剤・タバコの7つの課題をゼロにすることです。

たとえば「オムツゼロ」の場合は？

手塚 トイレに行けないからと安易にオムツにせず、その方の排泄リズムや水分・食事摂取量などを記録・観察し、そのデータをもとに要因を検討して、自力で排泄できるよう支援

しています。この介護が高齢者にとってどのような作用・効果があるか、科学的な見方で支援しているんですよ。

**身近な小規模事業所
拠点となる大規模事業所
役割に合わせて支援**

今後、地域介護で必要なことは？

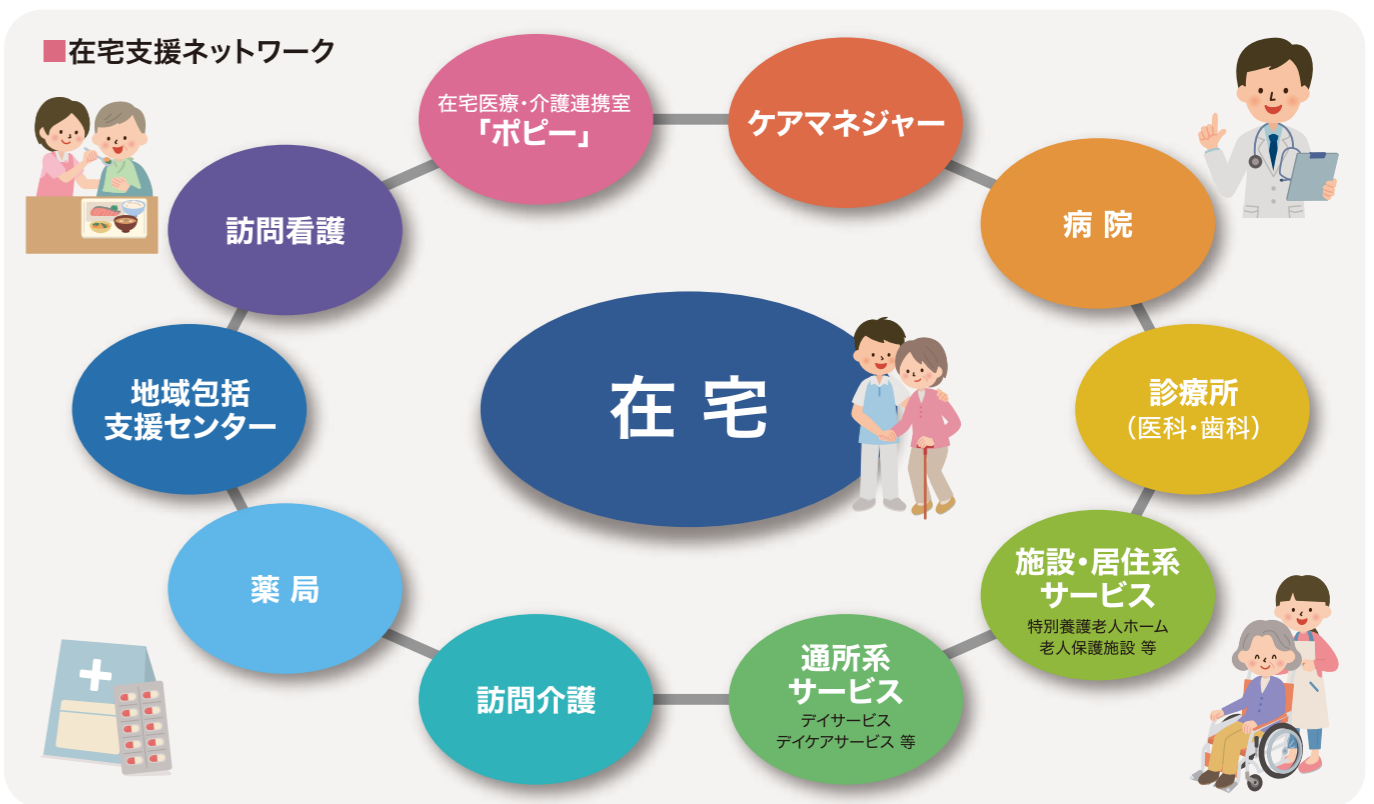
手塚 地域で通いやすく親しみやすい、身近な小規模事業所と、災害などの緊急時や地域福祉の拠点となるような大規模事業所が、役割に合わせた支援を行っていくことが望ましいのではないのでしょうか。

介護の立場からご意見をひとこと。

手塚 介護は高齢者の生活をサポートし、その方の人生を支えるライフサポートの役割が求められています。それに携わる介護職が誇りを持って働けるよう、介護の価値向上への取り組みが不可欠だと思います。



特別養護老人ホームながまち荘(山形市) 副主任 生活相談員 手塚敬一郎さん



お年寄りとの介護サービス 介護の多職種つなぐパイプ役

それぞれのサービスが円滑に行われるよう主治医やさまざまな職種の人たちとチームをつくり、その中で担当するお年寄りの代弁者として、お年寄りの立場にたった最適な支援を考えるのが仕事なんです。

**本人や家族に寄り添い
自立した生活できるように
ケアプランを作成**

〈さくら編集室〉 せんじゅ居宅介護支援事業所・ケアマネジャー(介護支援専門員)の海藤美紀さんにお話を聞きました。

ケアプランを作成するときに気をつけていることはありますか。

海藤 信頼関係を大切にして、本人の要望や家族の意向に寄り添ったプランをつくり、できる限りご本人の力が発揮できる生活が送れるようにと考えています。

在宅医療についてひとこと。

海藤 いくつも疾患を持つているお年寄りが多く、高齢になって病院できかない人も増えています。そうした人を往診してくれ、総合的に診てくれるお医者さんが増えてほしいですね。みんな支え合いながら、最期まで安心して自宅で過ごせるような地域になれたらいいと思います。